

## 三重県の中核となる中間支援センターのあり方研究会研究成果報告会概要

日時 平成20年3月13日(木) 19:00~21:00

場所 みえ県民交流センター ミーティングルーム

### 1. 協働研究の経緯

研究会の発足 各地域の中間支援などから研究員として8名参加。

7回の研究会と7回の作業部会での検討。

### 2. 全国の中間支援の状況について = 調査報告

あびこ市市民活動ステーション：運営委員会による市民と行政の協働運営。

藤沢市市民活動推進センター：公設民営。民間の活用による

柏市民活動センター：相談業務中心に運営。空店舗利用のため場の提供はしていない。

### 3. 提言

(1)研究会の目的、(2)三重県の中核となる中間支援のめざす姿、(3)三重県の中核となる中間支援が担う機能にまとめた。

### 4. 研究会メンバーの思い

- ・ 指定管理者制度導入が単に管理だけにならないよう研究してきた。
- ・ 繰り返し話し合っても形にならなかったテーマであった。誰が指定管理者になるのかわからないが、いいものになってほしい。私たちのセンターという気持ちで、みなさんの意見がほしい。
- ・ 研究員に偏りがあったと思う。市民活動センター長の集まりのようになったので、分野別の中間支援の意見を網羅できなかった。場所にこだわらず、どんな所より、どんな組織と思う。
- ・ 指定管理者制度導入は感慨深い。私たちが関わって一緒に機能を創ってきた。今後、どのような形になるのか、最後まで見守っていきいたいし、何らかの形で関わっていきいたい。市民も問われるときと感じている。
- ・ 現在のセンターに不足しているものが把握できればと思ってやっていた。よりよい提案にさせていただくことを期待している。指定管理者にも、この提案を生かしてほしい。
- ・ 指定管理者制度の導入は、行政経営からすれば当たり前のことであるが、市民側から見れば大きな意味を持つものである。これまで、県と市民の関係は濃厚だったが、変わりつつあり、指定管理者制度導入は、よい転機となる。この研究は、限られた人の中でどれだけ出来たのかと思うが、関わった人たちの思いや、話し合いの難しさが出ている。箱(施設)が担えるものはわずかである。提言では、ほとんどソフト面のことを言っている。ソフトは、箱が担うのではなく、人が担うものである。手段や方法論ではなくて何を担うのか、箱がどういう姿を生み出すのか注目したい。

## 5. 会場との意見交換

- ・ 質問 市民活動の社会化支援の補足資料で、自己満足の完結型活動は、社会的・公益的ではないということか。  
回答 自分たちだけで活動している人を否定したものではない。表現については再度検討する。自己満足というのは大事である。完結型というのは、内向きではなく外に向かおうということ。共益的な活動を社会的活動にしていくのは、サポートセンターの役割と思った。表現の問題だと思う。
- ・ 質問 この研究会は誰に向けて提言したものなのか。  
回答 NPO活動をしている人や、一般の市民、県に対して提言した。
- ・ 質問 組織運営のやり方の提案のような気がする。何のため、誰のためという議論がどれくらいあったのか。  
回答 私たちのため、自分たちがやってきたこと、やっていかなければいけないことを整理した。
- ・ 質問 少し前に既にやった議論のような気がする。三重県の特徴がどの程度議論されたのか。開かれた市民社会のためにということが、書かれていないといけない。全国のどこに出してもいいような内容になっていないか。地元で現実に中間支援をされているので、三重県らしさを出してほしい。  
回答 書いたものにすると、他県と同じに見えるかもしれないが、みんなの実体験から出てきた意見である。  
アドバイザーから回答 非常に三重県らしい議論がされたと思う。全国の中間支援とは、かなり違う。個々の支援にベクトルをあわせ、ネットワークでつなぎ、市町の支援センターの位置がくっきりしている。これは、南北にも長い三重県の事情といえる。三重県NPO室が種を蒔かれたこともある。愛知県では、県域で中間支援を行うセンターがいくつもあり、ボランティアや市民を視野に入れているものもある。対象がはっきりしていないのも三重県らしさである。
- ・ 意見 三重県らしさがわかるように表現した方がいい。
- ・ 質問 タイトルが気になった。三重県の「中心となる」から「中核となる」に変わっているが、どういうふうに変わっていったのか。  
回答 「中心」と「中核」の区別はあまり意識していなかった。はじめから議論の中では「中核」を使っていた。
- ・ 質問 三重県とは県民のことか、行政のことか。また、これが税金で負担する中間支援が担う機能なのか。  
回答 三重県とは行政のことではない。また、この機能をすべて公的資金で担うとは思っていない。この研究会とは別の指定管理者制度導入のための懇談会で話がなされたのは、ごく一部の機能である。
- ・ 質問 企業をどう位置づけているか。

回答 企業について限定した議論はしていないが、企業による助成金の取り組みなどが始まっているので、もっと活性化させるという意味で入っている。

- ・ 質問 この研究会で出された意見は、指定管理者制度導入につながるのか。理想論であるなら、本当にできるのかという議論になる。きちんと報告書を書いてほしい。三重県らしさがあると言われたが、市民活動のプロというような方がいる、いろいろな人が参加できる土俵があって、そういう人々にわかるような言葉で書かないといけないと思う。市民活動が何かわからないまま離れていってしまわないか。センターは、入り口でないといけないので、目的やいきつく場所をはっきりと書いて、まとめていただきたい。

回答 表現を検討して文章を整理したい。

- ・ 質問 最初に一般県民を対象と言われたが、これは明らかに市民活動をしている人が対象で、個人より組織に着目しているのではないか。

回答 研究員の中でも意見に差があったので、わからなくなるということも意識していた。中核とは、中間支援の中間支援をするというイメージである。個別の支援をする中間支援とは違う。三重県のNPOの中でこれまでやってきた三重県らしさが出ていると思う。これが、第一歩の提言になると思う。

- ・ 質問 指定管理者制度導入前提で議論をしているのか。それを置いておいて、こうあるべきという議論をするのは、意味が違うのではないか。

回答 指定管理者制度導入ありきの議論ではない。

- ・ 質問 運営にこだわった部分と理念の部分を分けたほうがいいのではないか。

回答 分けることはないと思う。こういう機能を持ったセンターがほしいと提言している。現実にしていくなら、県内に3箇所くらいできるといいと思う。指定管理者に目指していただきたい、自分たちがするなら目指したい姿である。指定管理の募集要項にそのまま提言を入れていくと限られた運営の形になるので、指定管理者やセンターに求めるのではなくて、あるべき姿として中間支援に求めたい。